

令和 8 年度第 1 回 柏市地域包括支援センター運営協議会会議録

1 開催日時

令和 8 年 7 月 1 6 日（木）午後 1 時 3 0 分から 3 時まで

2 開催場所

柏地域医療連携センター 研修室（ハイブリッド形式）

3 出席者

(1) 委員

石山委員（会長），織田委員，小山委員，武市委員，齊藤委員，
原口委員，山本委員，工藤委員，中基委員，石田委員

(2) 市

真田健康医療部理事，宗得健康政策課長，島澤高齢者支援課長，
大滝地域医療推進課長

(3) 事務局（地域包括支援課）

小出課長，小笠原課長補佐，長谷部課長補佐，山崎係長，菅谷
係長，北村係長，吉田係長，中渡主査，藤家主任，芳村主任，渡
邊主任，齋藤主事補

(4) 地域包括支援センター

山本柏北部地域包括支援センター長，服部柏北部第 2 地域包括
支援センター長，大島北柏地域包括支援センター長，菅野北柏第
2 地域包括支援センター長，笠原柏西口地域包括支援センター長，
南良柏西口第 2 地域包括支援センター長，村本柏東口地域包括支
援センター長，志摩柏東口第 2 地域包括支援センター長，神津光
ヶ丘地域包括支援センター長，宮原柏南部地域包括支援センター
長，中村柏南部第 2 地域包括支援センター長，京牟礼沼南地域包
括支援センター長

4 議題

- (1) 令和 7 年度柏市地域包括支援センター事業実績について
- (2) 令和 7 年度柏市地域包括支援センター事業評価について
- (3) 令和 8 年度地域包括支援センター事業計画について
- (4) 令和 8 年度地域ケア推進会議について

5 議事

- (1) 令和 7 年度柏市地域包括支援センター事業実績について

事務局より資料１－１に沿って報告した後，質疑応答等を行った。主な内容は次のとおり

＜質疑応答＞

【武市委員】

柏西口第２地域包括支援センターのイオンウォーキング，柏北部地域包括支援センターのおまめン家について，それぞれどの程度の人数が参加しているのか把握しているか。

【柏西口第２地域包括支援センター・南良センター長】

１回当たりの参加人数は２０人から３０人程である。

【柏北部地域包括支援センター・山本センター長】

１回当たりの参加人数は１２人から１３人程である。おまめン家は地域住民の空き部屋を利用して始めた事業であり，新しい住民と地域住民の交流の場となっている。回を重ねるごとに人づてに広まっていき，現在は看護学生の実習の場としても活用されている。

【原口委員】

他の地域包括支援センターでも同様の取組を実施できるのか。

【事務局】

地域ごとに課題や市民ニーズは異なるが，他の地域包括支援センターでも参考になるものと考えている。市としても，各地域包括支援センターが地域課題に応じて全く同じことをするのではなく，地域特性に合った好事例を取り入れられるよう支援していく。

【石田委員】

資料１－１のスライド７で終活に関する講座が多く実施されているが，そのニーズの高まりはなぜか。

【事務局】

単身高齢者の増加に加えて，身寄りのない方や家族との関係が希薄な方が増えていることが背景にある。また急な入院や判断能力の低下，亡くなった後の手続き等への不安を抱える方も多く，元気なうちから備えたいという意識が高まっている。

【石山会長】

各地域包括支援センターにおいて，それぞれ工夫を凝らした様々な取組が行われていることが分かった。

< 決定事項 >

事務局からの報告内容にて，令和 7 年度柏市地域包括支援センター事業実績として承認を得た。

(2) 令和 7 年度柏市地域包括支援センター事業評価について

事務局より資料 1－2 に沿って説明した後，質疑応答等を行った。主な内容は次のとおり

< 質疑応答 >

【武市委員】

柏市薬剤師会と地域包括支援センターの合同研修を令和 4 年度から実施しており，参加者から非常に好評である。今後も連携を継続するとともに，未実施のエリアにも展開し，令和 8 年度の体制強化につなげていきたい。

【石山会長】

これまでの連携の成果を御紹介いただくとともに，今後の活動についても，他のエリアを含めた取組の拡大を御提案いただいた。

【齋藤委員】

地域包括支援センターとケアマネジャーは良好な関係にある一方，委託ケースにおける業務負担やケアマネジャーのシャドウワークが課題となっていることから，今後は業務負担の軽減に向け，より一層の連携・協力を図ってほしい。

【石山会長】

ケアマネジャーの業務負担やシャドウワークの実態を可視化し，地域包括支援センターをはじめ，関係者が課題を共有しながら，役割分担や解決策を検討していくことが重要である。

< 決定事項 >

事務局からの報告内容にて，令和 7 年度柏市地域包括支援センター事業評価として承認を得た。

(3) 令和 8 年度柏市地域包括支援センター事業計画について

事務局及び各地域包括支援センターより資料 2 に沿って説明した後，質疑応答等を行った。主な内容は次のとおり

< 質疑応答 >

【中基委員】

田中・柏の葉地区では，民生委員の定数 19 名に対し，現在 1

0名と約半数にとどまっており、人手不足が深刻な状況である。そのため、地域包括支援センターに多くの支援をお願いしている状況だが、民生委員の担い手不足により、十分に対応できない場面もある。

このような状況を踏まえ、地域活動を継続していくためには何が重要であるとお考えか、また、担い手不足の中で地域包括支援センターとしてどのような視点で地域づくりを進めていくことが重要と考えているのか、柏北部第2地域包括支援センターの考えを伺いたい。

【柏北部第2地域包括支援センター・服部センター長】

本センターでは、今年度の事業計画において、高齢者の社会参加の推進を重点事項の一つと位置付け、生活支援体制整備事業を通じて地域活動の充実や担い手づくりに取り組んでいる。詳細は事務局から説明を申し上げる。

【事務局】

生活支援体制整備事業の一環として、今年度より新たな取組として、「ちょい足し活動応援プログラム」を柏市全域で実施している。当該プログラムは生活支援コーディネーターが高齢者の特技や経験、興味・関心を把握し、地域活動や活躍の場につなげる取組である。地域の担い手不足が進む中でも、高齢者の社会参加や介護予防を推進するため、地域包括支援センターと社会福祉協議会が連携して事業を進めていく。

【山本委員】

柏市民健康づくり推進員もフレイル予防に向けた様々な取組を行っているため、地域包括支援センターと連携・協力することで、より効果的な地域活動やフレイル予防の推進につながるのではないかと。

【柏東口第2地域包括支援センター・志摩センター長】

当圏域ではフレイル該当者の割合が高いことから、重点的にフレイル予防に取り組んでいる。今年度は、柏市民健康づくり推進員と連携し、地域の祭りでフレイル予防に関するブースを設置する予定であり、今後も地域と協働してフレイル予防活動を推進していく。

< 決定事項 >

事務局及び地域包括支援センターからの説明を踏まえ、令和8年度地域包括支援センターの事業計画として承認を得た。

(4) 令和7年度地域ケア推進会議について

事務局及び柏西口第2地域包括支援センターより資料3に沿って説明した後、質疑応答等を行った。主な内容は次のとおり

< 質疑応答 >

【事務局】

次の2点について、委員の皆様から御助言をいただきたい。

1点目、おひとりさま老い支度あんしんフローチャート、老い支度あんしんチェックリストの内容、活用方法について

2点目、終活に取り組む必要性や利点をどのように伝えていくか。終活に関して自助、共助としてできることは何か。

【工藤委員】

後見人に係る業務を行う中で、本人の意思を早い段階で誰かと話し合い、地域とのつながりを持つことの重要性を実感している。またその話し相手は必ずしも家族や専門職である必要はないと考える。地域とのつながりの中で相談できることが重要。今回作成したツールは、記入すること自体が目的ではなく、本人の思いや将来について身近な人と話し合うきっかけとなる点に大きな意義がある。

【石山会長】

後見の現場からの御意見として、終活は家族や専門職に限らず、身近な人と困る前に話し合っておくことが重要であるとの御意見をいただいた。そのきっかけとして、今回作成したフローチャートやチェックリストの活用を御提案いただいた。

【齊藤委員】

フローチャートは利用者にとって内容や相談先が分かりにくい一方、チェックリストは一つずつ不安を整理でき、相談のきっかけとして活用しやすい。また、認知機能の低下だけでなく、在宅生活で身体的に支援を必要とする方にも活用しやすい内容となるよう、見直しを検討してはどうか。

【石山会長】

実際に利用していただいた際の御意見として受け止め、今後の改定の際の参考になるのではないかと。また、一人で活用することが難しい方については、支援者が寄り添いながら活用できるような工夫も重要であるとの御提案をいただいた。

【中基委員】

「おせっかい活動」を通じ、地域の高齢者から「万が一に備えて家の中を整理し、身の回りを整えておきたい」との声を聞く機会があり、終活は特別なことではなく日頃の暮らしの延長として考えられていることを実感した。また、このような日常の会話を通じて終活への意識づくりや支援につながると感じた。

【石山会長】

病気や入院を経験した高齢者の生の声は大変貴重であり、そのような経験が地域活動の中で共有されることは、終活への意識づけや啓発につながると考える。また、今後もこうした実体験を地域で発信していくことは重要である。

フローチャートやチェックリストは有効な支援ツールであり、その活用方法や導入のタイミング、誰と共有しながら活用するかが重要であるとの意見があった。困る前の段階で活用するための場面やタイミング、ガイドの在り方についてのヒントを委員の皆様からいただいた。

【事務局】

終活へのニーズが高まる中、本日いただいた意見を今後の事業に反映していく。また、関係機関と連携しながら終活をはじめとする地域課題の解決に取り組んでいく。引き続きの協力をお願いしたい。

6 報告事項

- (1) 介護予防支援及び総合事業に係るケアマネジメント業務の委託について

事務局より資料4に沿って報告を行った。

- (2) 令和6年度のセンター運営に対する評価結果（全国・県平均との比較）

事務局より資料5に沿って報告を行った。

7 傍聴

(1) 傍聴者 1 人

(2) 傍聴の状況 傍聴要領に反する行為は見受けられなかった。

8 次回開催日程（予定）

令和 9 年 2 月 4 日（木）午後 1 時 3 0 分から午後 3 時 3 0 分まで